

夢描く場所

千葉市立高等特別支援学校
学校だより 第1号
令和3年4月15日

進級・入学おめでとうございます

校庭には、先輩たちが心を込めて育てた色とりどりの花が、新しい年の始まりを祝うかのように咲きほこっています。

在校生の皆さん、進級おめでとうございます。そして、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

まずもって、始業式、入学式を予定通り行えたことに喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。以下に、入学式の式辞にて話した内容を抜粋加筆して載せさせていただきます。



皆さんは、「卒業後、就職し自分の力で生きていける社会人になる」という目標をもち、自らの意思で本校に入学してきました。皆さんが、「誠実で心豊かな社会人」になるために、次のことを大切にしてほしいと思います。

一つ目は、気持ちの良い挨拶を進んですること。二つ目は、時間を意識して行動すること。三つ目は、気持ちを込めて清掃すること。こうした「当たり前」のことを一つ一つ確実に行うことです。この「当たり前」を積み重ね、卒業していった先輩方は立派な社会人として頑張っています。

ここで、「当たり前」という言葉について考えてみましょう。「当たり前」を辞書で調べると、そうあるべきこと。当然のこと。ごく普通であること。とあります。ですが、現在はコロナ禍で、この「当たり前」が「当たり前ではなく」なっています。挨拶したくても挨拶する友達や先生に会えない。休校や行事の変更などが多く、時間をうまく使えなかった。など、色々なことが「当たり前」にできなかったと思います。

皆さんは、「当たり前ではない」「当り前のことができない」つまり、「当たり前」の反対の言葉は何か知っていますか？反対語は、「有り難い」です。漢字で書くと「有ることが難しい」と書きます。普通であることが難しい、滅多にないことや珍しくて貴重だという意味を表しています。朝目覚めるのが当たり前。歩けるのが当たり前。ご飯を食べられるのが当たり前。学校に行けるのが当たり前。友達に会えるのが当たり前。あらためて考えると私たちの生活はたくさんの「当たり前」があふれています。でも、このように「当たり前」と思っているすべてのことが、裏を返せば「滅多にないこと、貴重なこと」、言わば「奇跡」の連続としてとらえることができるのではないのでしょうか。ですから、「当たり前」としてできることを「有り難い」と感じる。何事に対しても誰に対しても感謝の気持ちをもつことがとても大切だと思います。

これから新しい学校生活が始まります。「当たり前」は「有り難い」ということを意識しながら、楽しく充実した生活が送れるよう、私たちと一緒に頑張っていきましょう。

保護者の皆様、お子様方は自立への一歩を歩み始めました。しかし、今後、職業人・社会人として自立していくためには、まだまだ皆様の支えが必要です。働くことの意味、卒業後どんな生活をめざすのか等について、お子様とともに考えながら、引き続き温かですっきりとした支えをお願いいたします。そして、お子様の夢の実現に向けてともに手を携えて参りましょう。職員一同、一丸となって、お子様の夢の実現に向けて努力してまいります。一年間、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

校長 三宅 健二郎